

SAPソリューションに関わる すべての人のために

JSUGの活動紹介



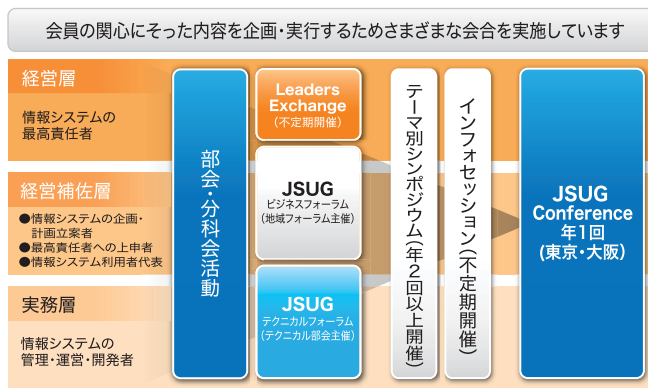
JSUGは新しい情報を得るためだけの場ではない。SAPソリューションや情報システムに対する「熱い思い」を持った人間が集まり、切磋琢磨し、お互いが高めあう貴重なコミュニティである。

JSUGのアクティビティー

JSUGにおいて、まず基礎となるのが部会・分科会活動です。その数はフォーラム、研究会を入れて22あります。産業別、機能別、地域別、研究テーマ別に分かれ、情報交換/共有、SAPへの各種要望活動などを行っています。

開催される会合の種類としては、大きく分類して、経営層向けにはLeaders Exchange、経営補佐層向けにはJSUGビジネスフォーラム、実務層向けにはJSUGテクニカルフォーラムがあります。

それぞれの会合では、ユーザー会ならではの本音の話を当事者同士で情報交換できます。導入・運用・活用に関する悩みも共有でき、また、産業別・機能別の部会や地域フォーラムを通じて、身近に相談できる社外の人脈を形成することが可能です。



2008年度 開催会合種類

人と人とのネットワーク、情報をフルに活用 ~会員インタビュー~

かけがえのない人との信頼関係を構築

■ Global Implementation部会 副部会長
コニカミルタ情報システム株式会社 取締役
ビジネスシステム開発本部 本部リーダー

滝川 浄氏

SAP ERP導入の課題解決策を探すため入会。JSUGで作った人脈で多くのものを得ています。他では得られない信頼関係も生まれ、困ったときに連絡して「事例を聞かせて」と頼みこんだとき、わざわざ私の会社まで来て話をしてくださった方もいます。競合他社と本業では真っ向勝負をしますが、それ以外のところでは、SAPソリューション発展のためにも協力しあったり、刺激を受けあったりというライバル関係を構築しています。JSUGに入会した場合、受身でセッションを聞くだけではだめです。やはり主体的に参加し、人間関係をつくるのが大切です。

幅広い階層の人に出会い、多角的視点を学ぶ

■ テクニカル部会 運用管理者分科会リーダー
株式会社NTTデータウェブ
事業推進室 部長

松井 憲司氏

米国のSAPユーザー会であるASUGの視察ツアーに参加した際、知り合ったJSUG会員の方から入会を勧められました。JSUGには、現場SEから取締役まで背景の違うさまざまな人がおり、多角的な意見が聞けるので、刺激を受けています。また、現場の技術者が他社の人間と知り合うには貴重な場であり、悩みの共有ができるだけでも意味があると思います。システムでトラブルに遭遇したときにも、JSUGで研究ずみの原因であったため障害の切り分けができ、根本的な対応も容易にできたという経験があります。

海外の技術情報を効率的に吸収できる

■ テクニカル部会 研究・開発者分科会リーダー
eSOA研究会メンバー

東洋ビジネスエンジニアリング株式会社
執行役員 ビジネススイノベーション本部長 増淵 澄氏

SAP製品は非常に奥深い。ただし、最大限に活用するには製品をよく知らなければいけません。エンドユーザーに対するSAP製品の情報は正直少ないと思います。それはSAPというよりは英語の問題です。現存する多くのSAP製品に関するドキュメントは英語であるため、せっかく用意された豊富な機能にも気づかないユーザーが多くいます。だからこそ情報を公開し合えるJSUGの場は重要だと感じています。また、ユーザーの要望をまとめ、SAPに提示できる場としてもJSUGは必要不可欠ではないかと思っています。